

センター通信

この度桔梗ヶ原病院認知症疾患医療センターでは、認知症疾患医療センターを知って頂くとともに地域の皆様とのつながりは強くするため、広報誌「センター通信」を発行することになりました。

季節ごとに発行していく予定ですので、

ぜひご覧になってください。



認知症は「ものわすれ」ですか？

センター長 中居龍平 医師

長く認知症疾患とつきあう事で、ときに認知症と呼ばれあるいは「認知症」診断された人々の、内的な精神世界はどのようなものであろうかと常に考える習慣が身についた気がします。

「ものわすれ」の現象そのものは記銘力などの学術用語を用いなくとも小学生でも日常的に経験することであろうし、特に年齢にかかわらず経験することです。しかしながらこの「ものわすれ」がある一定の年齢の人々に起きた時に、何故生活機能全般に影響をあたえ、生活機能の維持を最大の目標に様々な医療対応と予防対応がとられるようになるのでしょうか。

認知症専門の医療機関が用意されるようになって20年以上の時間が経過しましたが、初めて患者集団に接した時の戸惑いは今もって忘れることはありません。回廊式に設定された病棟で終日歩き続ける男性高齢者が疲労のあまり座り込むまで休止しようとする姿が今でも心に残っています。

「ものわすれ」がなぜ、終日の強迫性歩行に至るのか。この高齢者の内的世界はどのような「ものわすれ」だったのでしょうか。考えてみれば「ものわすれ」と「強迫性の終日歩行」の間には無限の距離があるはずで、注意深く観察すると曲がるべき角は認識し

ており、障害物があれば避けて歩き続けます。コミュニケーションはとれませんが、物品・人物の認識は保たれている中で、何かに憑かれたような歩行行為だけが顕著に目立っているのです。

現在では何か行動抑制困難が存在する認知症疾患は前頭側頭型認知症としてよく知られるようになり、前頭葉機能低下として説明がついた形になっていますが、その内実はプログラム障害の形だけで、なぜこのような行動に至るかの説明では十分ではないような気がします。強迫的な行為だけならば食事を続けてもよいし、話続けてもよいはずですが、ところが、この高齢者の場合歩くことのみに関心が向いていないのです。最近はこの行動・行為に至るもう一つの可能性として行動・行為の持つ本来の多様性が失われた状態ではないかと考えるようになりました。

普段接する認知症患者の中にも行為そのものがやせ細り、単独の意味しかもたないケースを多く認めるような気がします。「ものわすれ」の内実は行動行為の多様性喪失が大きくかかわっていると考えるに至りました。我々は「ものわすれ」ばかりに気をとられ、健常と認識している間にも日課と称して行動行為の単純化していることにも関心を向けるべきと考えています。強迫性回廊歩行に駆られる姿の中でも、あの悲しげな表情は行動行為がやせ細った思いがでていたのかもかもしれません。

先月の活動報告

- 「認知症の人と家族の会」長野県支部
塩尻地区会様と面談しました
「認知症の人と家族の会」長野県支部塩尻地区会の代表の方とお会いしました。
認知症疾患医療センターは医療的ケアだけでなく、その後の日常生活の支援も求められており、今後塩尻地区会と連携しながら生活支援も進めていきたいと思っております。

今後の予定

- 7月 塩尻市内老人福祉団体「あけぼの会」様に講師派遣が決まりました。

現在コロナウイルスの影響で認知症疾患医療センターの活動も制限されておりますが、徐々に活動を再開していく予定です。

認知症疾患医療センターとは？

看護師 北村みゆき

当院では 2019 年 4 月より認知症疾患医療センターを開設し、日々認知症に関する医療サービスを提供しております。

専門医 3 名体制で、次の日程に沿って検査を行い認知症の鑑別を行っています。

- ① 初回受診
認知機能検査・胸部レントゲン・頭部 MRI 検査
本人問診・家族問診
- ② 2 回目受診
血液検査・尿検査・心電図検査・重心動揺検査・身体評価
(身体の状態を調べます)
- ③ 3 回目受診
検査結果をお伝えし、鑑別診断を行い、これからの医療・介護・生活を組み立てるご相談を致します。

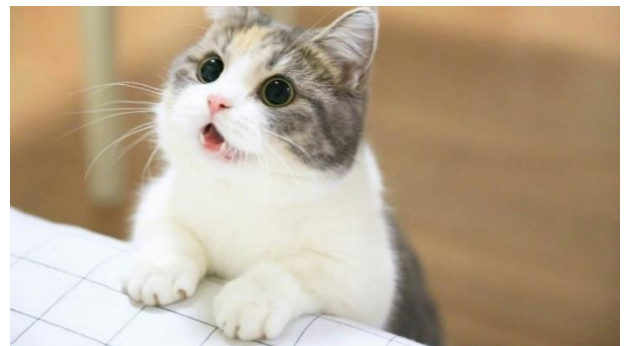
日々患者さんと接する中で、近頃「一人暮らし」や「夫婦のみ」「日中独居」という形で暮らす人が増えてきているように感じます。そういった方も、できる限り住み慣れた地域で最後まで暮らすには地域で認知症の人と

その家族を支える必要があり、そのためにも医療と介護の連携が欠かせません。

先日私も私共が支援に入らせて頂き、中々進まなかった医療と介護の連携を進展させることができ、今では本人が喜んでデイケアに通うようになり、ご家族も自分の時間をとれるようになったという感謝の声もいただきました。

私たち認知症疾患医療センターの職員はこのような喜びの声を増やすべく、認知症についてわかりやすく説明を行い、患者さんやご家族に寄り添った支援を行っていきたく思います。

どこに相談したらいいかわからない時や、困っている方がいましたら是非当院の認知症疾患医療センターにご相談ください。



医療法人社団 敬仁会 桔梗ヶ原病院
〒399-6461 長野県塩尻市宗賀 1295
電話番号 : 0263-54-0012
F A X : 0263-52-9315

桔梗ヶ原病院
認知症疾患医療センター
直通電話番号 : 0263-54-7880
F A X : 0263-54-7881
E メールアドレス : geriatric-medicine@keijin-kai.jp